

内容項目名	生命の尊さ（内容項目D－（19））		
資料名	「道徳ドキュメント キミならどうする？」（いのちの判断） （出典 NHKエンタープライズ）		
学校名	佐倉市立佐倉東中学校	指導者名	石橋 廉

1 学習指導案

中学校 1年2組 道徳学習指導案

平成29年10月25日（水）5校時

（1）主題名

いのちの判断

（2）ねらい

かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる。

（3）主題設定の理由

本主題は、内容項目D－（19）「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」をねらいとしている。「生命の尊さ」については、全ての生徒が理解していることである。自分の命についても身近な人の命も、自分と直接関わりのない人の命や動物の命も大切であることを生徒は認識している。しかし、生命の連続性や有限性について意識をせずに生活している生徒がほとんどであると感じる。また命は大切であると理解していても、生徒たちの年代は、生まれたときからネット社会に生き、残酷なゲームや生命を軽視するようなゲームをバーチャルな世界で楽しんでいる者も多い。「死ね」や「殺す」などの本来慎むべき言葉を日常生活の中でごく普通に使うのも、周りの環境からとも言える。このことから「生命」に関わることについて心を強く揺れ動かされたり、深く考えたりする経験が少ないと感じ本主題を設定した。

この授業では、自分の命が自分だけのものではなく、家族にとっても大切なものであることにまずは気付かせたい。そして、「生」と「死」は隣り合わせにあること、「生命」は有限であることを理解させたい。また、「生命の尊さ」を理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養っていききたい。普段はほとんど意識していない「命」の問題を深く考えることで、生かされていることへの感謝の念や、自分自身の人生をよりよく生きていこうとする心、同じようにまわりの人たちの人生を大切にしていこうとする気持ちを育てていきたい。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 前時（短学活）に触れたドナーカードの実物を掲示し、日本臓器移植ネットワークの資料を掲示し確認する。 ○前時の確認をする。	・「脳死」と「臓器移植」について事前に学習したためイメージをもつことができると思われる。	・実物のドナーカードと資料を掲示し、本時の学習のイメージをもたせる。

展開
(40)

もし事故で突然、脳死となった家族がドナーカードを持っていたら、あなたはどうしますか？

2 中心発問の後、映像資料から子どもの臓器提供に同意した親の思いを考えながら映像を見てあらすじを確認する。

3 主発問に戻り、自分が永吉さん夫婦の立場だったらどうするかワークシートに書く。

①臓器移植に同意するか、しないかをグラフに記し、理由を書く。

②黒板のスケールに、ネームプレートを貼り、発表をする。
・自分の意見を書き終えたらネームプレートを貼る。
・自分の考えを発表する。
・友達の考えた理由と、心の傾きを知る。

③4人グループになって発表し合う。
・グループの友達の考えた理由と、心の傾きを知る。
・話し終わったらホワイトボードを黒板に貼る。

④友達の考えやその理由をもとに、自分の考えを改めてスケールに記し、理由を書く。
・自分の考えをワークシートに書く。
・友達の考えを聞いてから、改めて臓器移植をするかしないかについて考えを深め



〈臓器移植に同意する〉

- ・本人が決めたことだから。
- ・他の人の命も救えるから。
- ・体の一部だけでも生き続けられるから。
- ・脳死状態のままだと医療費がかかる。
- ・死んでしまったら何もできないから。

〈臓器移植に同意しない〉

- ・呼吸をしているのに内臓を取り出すのは嫌だ。
- ・本人が考えずに署名したかもしれない。
- ・殺すことになってしまふ。罪悪感がある。
- ・少しの可能性でも信じたいたから。

〈決められない〉



- ・難しい。
- ・実際に自分の身に起こったことでないの

- ・教師主体となりあらすじの確認を進める。
- ・「親が先に死を認めた」ことになる辛さを気付かせる。
- ・洋介さんも「命の重さ・大切さを同時に感じていた」ことを理解させる。

・脳死となっても人工呼吸器で心臓や肺は機能していることを再確認する。

- ・現時点での自分の考えを確認する。
- ・机間指導し、生徒の考えに赤線を引いていく。
- ・考えた位置にネームプレートを貼らせる。
- ・事前に赤線を引いた生徒数名に発表するよう指示する。(3人)

- ・各グループにホワイトボードを配布し、話し合った内容をメモさせる。
- ・自分が選択を迫られている立場になる可能性があらることに気付かせる。
- ・臓器提供の是非ではなく、「生命」に視点がいくようにする。
- ・机間指導し、生徒の考えに赤線を引いていく。

	<p>ていく。</p> <p>⑤ 1回目と臓器移植について考えが傾いたら黒板のスケールに、ネームプレートを貼り変える。心の変容について発表する。</p> <p>○なぜ気持ちが傾いたのか。</p> <p>○なぜ気持ちが変わらなかったのか。</p>	<p>でわからない。</p> 	<p>・「気持ちが傾いた」「気持ちは変わらない」など生徒たちの心境を発表させる。</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>4 感想を書き、発表する。</p> <p>○本時の授業の感想を書く。</p> <p>・道徳ノート右側に感想を書く。</p> <p>5 本時のふり返りをする。</p>		<p>・机間指導し、生徒の考えに赤線を引いていく。</p> <p>・「しても後悔・しなくても後悔」「今も判断に思い悩んでいる」という永吉さんの気持ちをもう一度注目させ、「いのちの判断」の重たさを伝える。</p>

2 事後検討会

(1) 授業記録 (展開3 あらすじを確認してから)

- T 今の映像を見て、もし自分が永吉さん夫婦の立場だったら臓器移植に同意するのか。同意しないのかを考えてください。
- S (臓器移植に同意するか。同意しないか。について考える。)
- T 同意するかしないかの2択ではないです。同意するでも100%同意するのか。それともやや同意しないよりなのかスケールに書き、理由も書いてください。
- S (ワークシートにスケールと理由を記入し、黒板のスケールにも自分のネームプレートを貼りに行く。)
- T なぜ同意するにしたのか理由を言ってください。
- S 洋介さんの意思でもあるし、臓器提供することで他の人の命を救えるから。
- T そうでしたね。洋介さんは臓器提供してもいいと考えていたし、実際に臓器提供で救われた人もいますね。同意しないにした人はどんな理由ですか。
- S まだ人工呼吸器をつけていたら息をしているのに、臓器移植に同意したら生きている人を死なせてしまうことになってしまうから。
- T 永吉さん夫婦も言っていましたね。では、どちらでもない人はどんな理由ですか。
- S 親の気持ちもわかるけど、洋介さんの人生なのでどちらでもないにしました。
- T お互いの気持ちになって考えてみたのですね。3人のようにいろいろな意見が出ました。これからグループになってみんなの意見を聞いてみましょう。
- S (3~4グループになり自分の意見を言い合う)
- T お互いの意見を言い合って、改めてもう一度臓器移植について考えをスケールに書きましょう。もし自分の考えが動いたら、黒板のネームプレートも動かしてください。
- S (ワークシートにスケールと理由を記入し、考えが動いたら、黒板のネームプレートも動かす。)

- T では、自分の考えが変わった人は発表してください。
- S 僕は、より同意するに動きました。洋介さんは人の役に立ちたいという気持ちがあって、移植で救えるのであれば、人の役に立てたのと同じだと思ったからです。
- S 私は同意するから、どちらでもないに変わりました。改めて考えてみると生んでくれた親の気持ちや本人の尊重などを聞き、どちらでもないと思いました。
- S 私も同意するから、どちらでもないに変わりました。洋介さんの思いもすごく大事だけど、まだ人工呼吸器で息をしているから、まだ見込みがあると感じたからです。
- T では、最初と考えが変わらなかった人も理由を言ってください。
- S 自分の体を移植させるのはいいけど、家族の誰かが移植させられたら後悔しそうという気持ちは変わりませんでした。
- S 脳死が回復する可能性があると思うけど洋介さんの思いがあるから一人でも多くの人を助けるために臓器移植をすることを考えました。
- T 今、いろいろな意見が出ました。そしてみんな悩んでいました。吉永さん夫婦も言っていたように「(臓器移植を)しても後悔。しなくても後悔。」という言葉もありましたね。最後に今回の授業を通しての感想を書いてください。
- (以下省略)

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・もし自分が洋介さんの立場になった時、同じように同意できたかはわからないけど私とその人が納得できるのなら一人でも多くの人を助けてあげたいと思った。
- ・家族の回復はとても信じたいです。でも家族がドナーカードを持っていて、そう思っていることに対してとても誇らしくてすごいし、勇気のある行動だなと思いました。なので本人の意思を尊重して、命をつないでいって、一人でも多くの人を助かればいいなと思いました。
- ・現実的になった場合、本人の意思を優先して考えることにしたい。一日も決めるのにかかったことはそれほど大変なことだなと思った。
- ・今日、臓器移植を改めて考えると、自分の体でも悩んでしまう。
- ・同意で100%にできなかったのは、脳死で息はしているのに移植して死なせるのは嫌だと思った。DVDを見て、永吉さんの気持ちがすごくわかった。
- ・臓器提供という言葉が知らなかったけど、TV や道德の時間でいろんなことを知れて、周りや家族のことの思いやりを大切にできた1時間でした。
- ・今回の臓器移植については人の生死をさまよっている判断なので、例え家族でも他人のことには違いがないので判断が難しいけれど、ドナーカードを持っている人の気持ちを一番に考えてあげたいと思いました。
- ・移植をするかしないかでこんなに迷うとは思いませんでした。
- ・もし私が洋介さんの立場なら私も洋介さんと同じ考えだと思う。でも親の立場ならまだ生きていけるという望みはあるからしたくないという気持ちもあると思う。実際にそこに立ったらすごく迷うと思う。

(保護者の感想)

- ・単純にYES/NOではなく、「同意する」にどれだけ近いか、というようにすることで、子どもがどれだけ考え、悩み、迷っているのかが見ることができて良かった。
- ・心のバロメータ、ネームプレート、ホワイトボード、映像・・・とあらゆる道具が使われていて、

盛りだくさんの内容でした。

- ・授業の内容がとても重く、生命そのものについて考えさせるものでした。が、自分のことだけでなく親や他の人の気持ちもよく考えていました。大切なことと思います。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) ネームプレート・スケールの活用

臓器移植に同意するのか。同意しないのか。について2択にせずスケールを用いることで生徒の気持ちの変容を掴みやすくした。またネームプレートを用いることで、周りの気持ちの変容も可視化することができた。

(2) 事前の知識

「生命の尊さ」については、普段触れる機会が少ないことや難しい知識がたくさんあると感じた。今回の題材は臓器提供だったため、事前に「脳死」や「臓器移植」、「臓器提供意思表示」などの言葉について知ることや、日本臓器提供ネットワークの資料や実際のドナーカードを見せることにより、授業をスムーズに展開することができた。

(3) 道徳ノートの活用

授業ワークシートを作成し、道徳ノートに添付させた。ワークシートの記入やノートの右側に感想を毎時間書かせることで、自身の考えや感じ方の変容を蓄積するようにした。道徳の教科化に伴い、道徳ノートからも評価をしていきたい。